

税金を納める本当の意味

学校法人岩田学園岩田中学校3年 鷲野 優

税金という言葉にはマイナスのイメージだけを持っていた。しかし、祖父がそれを笑った。それどころか「税金を納めることは幸せなことだよ」とも言った。

「支払わなければならないもの」「義務」「取られる」「高い」などの言葉を連想する税金。自宅を建てて支払いが終わっているけど、毎年土地や建物に対する「固定資産税」を納めていると母から聞いた時は驚いたし、幼い頃、友達と遠足のお菓子を近くのスーパーに買いに行った時は、決められた金額内にするために消費税がとても邪魔に思えた。

私や家族が支払う様々な税金は、私たちの毎日のために使われていることは理解しているが、それでも出来れば支払いたくないと思ってしまう。

私の家族は会社を経営している。会社に行った時、祖父から「表敬状」と書かれた賞状を見せてもらった。祖父の説明では、企業が長年正しく税金を申告し納税したと認められた場合にいただけるものらしい。とても厳しい審査を通り、認められる企業数は全国でもかなり少なく、大変名誉あるものだと教えてくれた。

「納税させていただくということは、仕事をして、その業績に応じた金額を納めるということ。その業績を認められたということは、会社や社員、そして自分自身の頑張りを認めてもらったことになる。有難いことだよ。」と話してくれた。仕方なく納税するのではなく納税させていただくという考えに驚いた。また、そのことで自分を認めてもらえたのだと感謝さえしていると聞き、そんな考えもあるのかと思った。

私も将来、仕事をするようになった時にそのように思えるだろうか。社会人になってすぐは給料も少ないだろうし、買いたい物が沢山あり、引かれている税金の金額に落胆するだろう。でもいつの日か、税金を納めることができるのは、自分が仕事を頑張って給料をいただいているからだと考える、そんな大人になりたいと思う。自分で家を建てたなら、固定資産税を納めていることで必死に頑張って持ち家を手にした自分を認められた気分になれるかもしれないと思う。買い物をして消費税を支払えば、毎日の買い物で社会のための税金を納めている自分を誇らしく思えるかもしれない。祖父の話は、納税に対する私の考え方を変えるきっかけになった。

いつか、私が消費税以外の税金を納めるようになった時、税金という言葉から連想するものはマイナスなものばかりでは無くなっていると期待する。まだ随分と先ではあるが、少し将来が楽しみになった。